



# からしだね

2014年  
2月号 (491号)

キリストの受難  
カトリック池田教会

共同宣教司牧: 畠 基幸神父・染野 治雄神父  
協力司祭: デニス・マックゴワン神父  
住所: 〒563-0041 池田市満寿美町9-26  
TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624  
URL(ホームページ) :  
[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



巻頭言 .....	2	ガラスケースの言葉 .....	3
クリスマス会 .....	4	インド募金お礼 .....	4
研修委員会から .....	4	待降節黙想会感想 .....	5
総務委員会から .....	6	東北の被災地を訪ねて .....	7
典礼委員会から .....	7	からしだね俳壇 .....	8
宝塚黙想の家から .....	9	財務委員会から .....	9

表紙写真: オーストラリア・シドニー 聖メリーズ教会 撮影: 神崎

巻頭言

## ーキリストに魅せられた者の姿へー 今年のビジョンを思う

畠 基幸神父

恵み多き年を願って祈り、新年のあいさつを交わしてすでに一月が経ちました。今は、来年度の計画を描き、4月からの新年度の評議会の役員や各委員会の予算編成の時期に当たります。今年度と来年度のちょうど仕上げと仕込みの端境期という時期なのです。昨年からの振り返りと次年度のビジョンと希望を思い描くときであります。

昨年は、「信仰年」の取り組みの一つに、「みことば」を中心というビジョンを掲げました。そのために、各委員会の特徴や活動を表現するのにふさわしい「みことば」を選び、その「みことば」に照らして活動するようにしましょうと私が提案して、6月の信徒総会で発表していただきました。このことを覚えておられて、どれだけ日常の信仰生活や委員会活動に意識されて徹底されたかは疑問ですが、「みことば」が人となられたこと

(ヨハネ1:14)を信じる私たちは、「みことば」を知ることによってより深くイエス・キリストに出会い、御父の愛とイエスの心を知ることになり、各委員会の活動はイエス・キリストを通して父の思いを実現する働き手として一人一人がキリストに仕え、キリストをあかしし、キリストを伝える者であることを体験すれば素晴らしいと思いついたからです。省みてみると、やはりすっぱり抜けてしまった感じがします。ひとつ記憶に残っているのは、日曜学校の夏のキャンプは、聖書の箇所を継ぎ合せてストーリーになるように工夫したことでしょう。いつもは、子どもたちが楽しい夏のキャンプを仲間たちと共に過ごすという趣旨が中心で、みことばを生活と結びつけることはしてこなかったように思うのです。そこで、みことばを中心にキャンプ生活を形づけてみてくださいと私がキャンプ準備会で提案しました。あとは細かい活動プログラムやストーリーなどを任せておきました。なんでも神父様に指導していただかなければということではなく、リーダーや父兄の方々をよくみことばを選びみことばに親しめるように工夫して、子どもたちを遊ばせ、そして学ばせたのでした。これまでのキャンプの中では一番良かったと感心した出来事です。

ところで、地区の養成コースでも、毎年の活動を振り返ると、真の宣教者、奉仕者となってキリストを宣べ伝える点で成長したのかと問われれば、松浦悟郎司教は「日本の信徒は、信仰を自分のことばできちんと語ることに苦手だ。この世の生活と信仰生活とが一つであれば、自分の生活の場で自分のことばで説明できるようになる。」(教区時報2012年6月第4回地区養成チーム代表者会議)と発言されて、信仰が日常のレベルに、またそれぞれの実存に根付いていないので、養成コースだけではその目的を果たせないことを指摘されています。私の言葉で言えば、教会の活性化の要は、信徒一人一人が日々「みことば」に親しみ、現実の場で「みことば」を思い浮かべて、イエスの思いと一体化するような心に形作られていくことではないかと思えます。

信仰の生き方のお手本という点で、新教皇選出は大きな光となります。第二バチカン公会議の開幕50周年を2012年から13年まで「信仰年」として全教会でお祝いしましたが、その途中で、教会トップの教皇が交代して、教会が俄かに活気づきました。中世の形骸化した教会の姿と信仰に対してフランシスコは「第二のキリスト」といわれるように、イエスと一体となって教会の信仰を立て直しました。そのフランシスコの名を自らの使命として受け継いだ教皇の発言と動静は毎日報道されるほど注目されています。グローバル化した世界には、古の力の論理の猛獣が幅を利かして、弱者を食物にしていますが、新しい契約の民である教会は、イエスの論理、愛による支配(神の国)の到来を告げ知らせなければなりません。みことばと祈りがその戦略の道具です。それはアナログのような世界のように片隅に追いやられていましたが、教皇様はそれを活性化させて、グローバルな教会の一致のビジョンを実現させているのです。教皇様は、シリアに対する軍事行動を回避させるために、世界中で同じ時間に一時間の聖体賛美と断食を求められました。(私たちの池田教会で、しななかったことをお詫びしなければなりません。)そしてその言葉の重みは、

教皇自身福音の基本に立ち返る姿勢、「貧しさ」にたいしては妥協がない生き方から来ています。徹底して他者のために、他者とともに生きる姿勢です。この信頼があるから世界の教会は動き出したのです。

今年は、「教会憲章」と「エキュメニズム（キリスト者間の一致）」の二つの公会議文章の50周年（両文書とも1964年11月21日公布）を迎えます。両文書は、公会議後の教会の50年間の活動の原理源泉となりました。両文書とも、聖霊の豊かな恵みにあふれています。どのようにしたら皆様と一緒にこれらの二つの文章を読むことができるかアイデアは思い浮かばないのですが、カテキズム（要理のことですが、聖伝ともいえます）のように、「みことば」が人となったことばとして読み続けたいと思います。教皇様の活動の原理にはこの二つの文章の影響は大きいと私は見えています。

さて、今年の私たちの教会のビジョンはどうなるのでしょうか？ 私にとっては、教皇様のように「生きているキリストに出会うような、そして出会わせるような生き方」、これは司祭にとって最上の目標であり、喜びの源泉となる働きです。これは、わたしの生涯のビジョンであるとともに、洗礼を受けた一人一人が与えられた召命でもあります。信仰の原点に戻り、「みことば」をさらに深めて祈り、皆様にも、私にもキリストに魅せられた者の姿を望みたいです。



## 2月のガラスケースの言葉

涙とともに種を蒔く人は  
喜びの歌とともに刈り入れる（詩編126-5）





## クリスマス会 (12月15日)



## 「インド募金」お礼

### ✠ 主の平和

大変遅くなってしまいましたが、新年のお慶びを謹んで申し上げます。

昨年末は、貴教会クリスマス会に、本校ジャグリング・サークルの部員生徒をお招きいただき、本校生徒に貴重な機会を提供して下さったことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

ところで、貴教会のクリスマス会にて、本校・社会奉仕委員会が毎月行っております「インド募金」(インド・ダンバードのハンセン氏病施設であるダミアン社会福祉センターへの募金)を呼びかけさせていただきましたところ、11,780円の貴重な募金を賜りました。先日現地施設に送金いたしましたので、その旨、ご報告させていただき、心よりお礼を申し上げたいと存じます。ありがとうございました。

本年も、貴教会と皆様の上に神様の豊かな恵みと祝福がありますよう、お祈りいたします。

六甲中学・高等学校 ジャグリング・サークル  
顧問 大西・岩井・鍵山

## 研修委員会から

3月29日(土)に北摂地区の中高生交流会が、  
カトリック高槻教会にて、10:00から行われます。





2013年12月1日の待降節黙想会(指導司祭: 染野治雄神父)の感想文



## 「待っていましたよ！」

北村

### ○「神の国を待ち望む」

普段から待降節について、イエス様のご誕生を祝うという認識程度でしたが、もう一つ意味があり、それは「ご復活の日を待ち望む」という事であると聞き、また一つ待降節についての想いが深まった様に感じます。考えてみれば、旧約の時代から待ちこがれた主(イエス様)が現われ、実現した様に、私達の生きている間にはかなわない事かもしれませんが、いつかきっと、イエス様が人となって現われ、神様の国がこの世に完成する時が来るのでは、と強く信じています。神父様から頂いた福音を元に何か一つでも信仰が篤くなれば幸せな事だと思います。いつも少しユーモアのあるご説教ありがとうございます。

### ○「待っていました！」

私たちは、人生の多くの時間を待つ。

待降節に入り二週に渡って「待つ」ことの大切さを改めて考える機会を与えられました。実際、私たちはどんなに多くの時間を「待つ」ことに費やしているでしょう。染野神父様の講話と松浦司教様のお説教は大変意義のあるものでした。adventという言葉も最近では少しずつ耳にするようになって来ているようです。そして私は「待つ」という事について忘れられない思い出が二つ脳裏をかすめました。一つはデニス神父様の思い出、もう一つは亡きクレメント神父様の思い出です。

一つ目は、息子がマリア幼稚園に入園した時のデニス神父様の思い出です。四十年前、不器用な私は三人の子供たちの世話に明け暮れて毎日クタクタ。長男が四歳になるまでなかなか主日のごミサにさえ参加することも出来ませんでした。マリア幼稚園の入園申し込み当日のことです。当時は、今で言う団塊の世代の子供たちで入園希望者が多く抽選と面接が行われました。そのため長い行列ができ、私と息子は長時間並んだ後やっと面接官であるデニス園長先生とシスターの前に来ました。シスターは、当時ごミサにあまり参加しない私を見て「信者さんにも色々な人がいるから」と私にはちょっと辛いお言葉。その時、思いもかけず神父様からの「待っていましたよ！」の一言。にっこりして大らかな態度とその温かい一言に思わず涙が溢れました。決して忘れません。こんなに愛情深い神父様のいらっしゃる園で育つ子供たちは幸せだと痛感しました。

それから四十数年、孫が園にお世話になった昨年もデニス神父様は、やはり毎朝園の前で子供たちを待っていていらっしゃいました。どんなに暑い日も寒い日も忍耐強く、にこやかに大らかに！子供たちは、毎日のことなので、今はそれが日常のことだと思っていることでしょう。でも、それがどんなに大切なことか、成長した時にきっと分かるはず。マリア幼稚園の若いご父兄方は、その神父様の姿に心を打たれているそうです。こんな園長先生は他にはいないと！

実際、毎朝どんな天候の時にも子供たちを「待つ」ことが出来るのでしょうか。言葉で言えば簡単ですが、デニス神父様は「待つ」という信仰の本質を全身で示してくださったのです。そのことを思う時、私は頭が下がり涙が溢れるのです。その神父様のお姿も来年からはお目にかかれないのでしょうか…

もう一つは、亡きクレメント神父様の思い出です。二十年前、私が母を亡くした時、神父様が夫に「一度奥さんを売布に来させるように」と言ってくださり、後日私が売布に伺ったところ「待っていたよ！」と迎えてくださいました。その時も神父様の温かいお心に涙が溢れました。神父様は、じっくりと母の亡くなったいきさつを聞いてくださいました。長い話を黙ってじっと聞いてくださったのですが、お顔の表情で私の辛さや悲しみをご自分のものとして受け止めてくださっていることがよく分かり、どんな言葉をかけてくださるよりも嬉しく、慰められました。別れ際に神父様にお礼を申し上げたら「私は聞くためにここにいるのだよ。いつでも待っているから」と微笑んでおっしゃいました。しか

し、辛い話を長時間聞くのは本当にパワーの要る大変なことだと後に悟りました。私にはとうてい出来ることではありません。

染野神父様の講話にあったように、苦難→忍耐→伝達→希望の順に進み、私は新たな力をいただいて歩み続けることが出来、現在に至っているのです。私事で大袈裟かもしれませんが、当時私(四十二才)も母と同じ癌にかかり「余命五ヶ月」と宣告されたのでした。私が手術をして二ヶ月後のご復活祭のごミサの最中に母は天に召されました。今思っても、あんなにすごい体験は二度とないのではと思えます。

思い起こせば、私がこの教会に通い始めた頃は未だ信者の数も少なく、お二人の神父様は毎週日曜日、教会の前の通りに立って私たちを迎えてくださっていたのです。冬の寒い日曜日の朝、ご受難会の黒いマントに身を包んだ神父様方の姿を鮮明に思い出します。先に述べた私の体験を思う時、「天の国」は実にこのようなものだと思うのです。そこにいった時「待っていました！」と抱きしめてくださる方がいらして私たちは喜びのあまり思わず涙するのです。同時に私が常に心を動かされることは、世の母親たちの「待つ」ことの忍耐強さ！マリア様の忍耐はいかほどのものであったのかと、祈らずにはいられません。

マラナタ「主よ、早く来て下さい！」



## 総務委員会から

池田教会では、教会に来られない方々を含めて信徒の皆様とのつながりを絶やさないようにと、クリスマス前の待降節と復活祭前の四旬節の二回、主任司祭のメッセージ等を郵送いたしております。しかしながら、郵送したメッセージ(手紙)が受取人所在不明で郵便局より返送される事案が多く発生しております。信徒の皆様で住居変更等された方は、教会に届けて頂きたいのです。

お届け方法は、主日(主に日曜日)のミサ後、カール記念館二階の事務室にお越しいただき住所変更届用紙に記入していただくだけです。

また、お知り合の方で、なにがしかの都合で教会に来られていなくて転居された方をご存じの方にも、住所変更が必要なことをお知らせくだされば幸いです。



## 間もなく3年目を迎える東北の被災地を訪ねて

藤岡

東日本大震災と津波被災地支援を目的として昨年行ったコンサートなどで集まった義援金(857,808円)の贈り先を、カリタス釜石の紹介で「釜石支援センター望」と決めたので、その活動の様子や現地の復興状況を見るために、1月6日から8日にかけて岩手県の釜石を訪れました。

花巻空港あたりは積雪が20cmほどあり、気温はマイナス6℃で、空港を一步出ると急に体が引き締まるような寒さ。しかしJR釜石のふた駅手前くらいから雪はなくなり、こちらに比べると寒いものの、移動には何の支障もなく予定を消化できました。

「支援センター望」は、日本聖公会が「釜石支援センター」として2011年9月に始めた活動が2年間で終了した後、代表をつとめていた海老原氏が引き継いで、任意の民間支援団体となって活動を継続しているもので、聖公会のバックアップがなくなって予算捻出に四苦八苦しており、活動用のワンボックスカーが必要とのことで、その助けになるように昨年のクリスマスにとりあえず義援金を振り込み、年末年始の連休に現地視察に行きました。「望」は釜石の仮設住宅の殆んどをカバーして活動しており、私も集会場でのロールケーキ作りや談話のプログラムに参加して、住民の方たちと交流も出来ました。また、津波被害の大きかった海に近い方面や、昨年訪ねた大槌町まで案内していただきました。

今回感じたことは、前回と比べるとガレキがなくなっていることくらいで、復興などどこにも見えず、ダンプカーや重機を殆んど目にする事もなく、「資材不足、人材不足」を耳にしますが、全くそのような状況です。東京に近い方ほど復興が少しづつ進んでいるのかもしれませんが、この先東京五輪でさらに人材も資材も東京に流れ、首都を離れるにしたがって東北の復興は取り残されるのではないかと大変気になりました。

海辺の水産加工会社や冷凍会社も再建されず、漁の水揚げがあっても流通に結びつかないという声もありました。大きな問題は土地のかさ上げでしょう。広大な土地を盛り土でかさ上げする計画で、それには一体どれほどの年月がかかるのか、気の遠くなるようなお話でした。そのための土は、これから復興道路なるものを造り、そのために掘るトンネルなどから出る土を利用するとのこと。鉄鋼の街釜石の山は岩盤でそれを削って宅地にすることは不可能のようです。

意外だったのは、宿泊場所としてホテルではなく体験のために仮設住宅を希望したのですが、寒いものと決め込んでいた仮設住宅は、狭いながら暖房器具が整っていて住宅全体が暖かく、帰って来た自宅の方が余程寒いと気づきました。また東北は格段の寒さと思い込んで、カイロやマスク、耳をおおう帽子など、重装備の寒さ対策で出かけましたが、3日間晴天に恵まれて日中は寒さも和らぎ、カイロ・マスク・帽子はどれも使われずに持ち帰ることになりました。海流の関係で釜石は雪も少なく比較的温暖だということでした。



### 典礼委員会から

- 3月5日の「灰の水曜日」のために、昨年の「枝の主日」に持ち帰られたソテツの枝を集めます。2月16日(日)～3月2日(日)に、聖堂入口に置く収集箱に入れてください。
- 集会祭儀の司式者のためにリフレッシュ・コースを、3月の第1、第4土曜日の14:00～16:00に池田教会で開催します。なお、第1回目は1月25日でした。

## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。  
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。  
宝は大事にしたいですね。

### ■ 日帰り黙想会

2月20日(木) 10:00~15:30

指導: 山内十束神父

費用: 3,300円

2月21日(金) 10:00~15:30

指導: 山内十束神父

費用: 3,300円

### ■ 1泊黙想会

2月22日(土) 17:00~23日(日) 15:30 指導: 山内十束神父 費用: 8,800円

※ 申し込みは、黙想の家まで TEL. 0797-84-3111

## 財務委員会より

### ★12月度光熱費

電気代 126,238円(12月分) ガス代 11,125円(11月分) 水道代 34,797円(10-11月分)

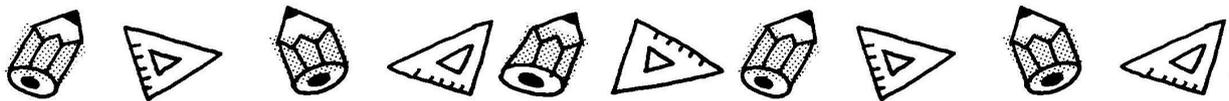
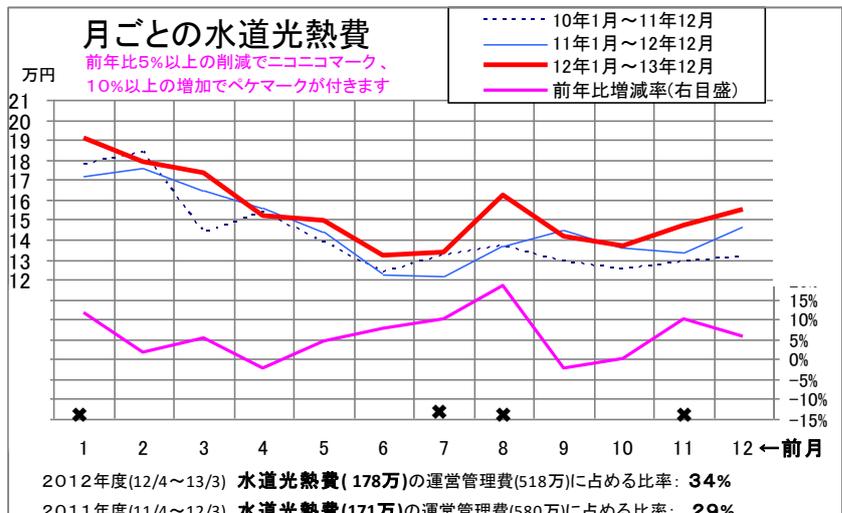
### 《直近1年間の光熱費の推移》

全体として、6パーセントほどの増額になっていますが、電気料金の値上げを考えると致し方ない数字かとも思います。

ただ、この後、12月、1月と厳しい寒さが続きましたので、暖房費の増加があるのではと懸念しております。くれぐれも消し忘れなどないよう、ご注意ください。

でも、教会で風邪をひいたなどということにはならないで！  
必要は時にはどうぞご遠慮なく、暖かくしてお使いください。

これからも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします！



## 編集後記

今年もバレンタインデーが近づいてきましたが、お勧めの観光スポットがあります。3月13日、夜7時のデパートのスイーツ売り場です。昨年同日同時刻、たまたまその場所を通り過ぎようとしたのですが、そこはスーツ姿の男性で身動きも取れない状況でした。お返しの品を買う為の長蛇の行列。どのお店が人気があるのか、思わず人数を数えましたが途中で判らなくなる始末。頂いたらお返しをしないといけない日本人の律儀さを感じました。同時に仕事帰りでお疲れなのに気の毒でした。いろいろ考えさせられた夜でした。

ちなみに私が立ち寄ったのは阪神デパートです。時間があればデパートの人気ランキング調査をしたかった。(笑) (まーちゃん)